

短歌 (投稿順)

穏やかな春の陽気に包まれてソメイヨシノにサクラにツバキ
過去は過去余韻に浸る君の声いつか戻りたい昔の関係
気づいてよ私の気持ち答えてよずっとは待ってあげられない心
冬の日にちりちりとふる雪景色わが身震える白吐息かな
お別れだ君との時間楽しくね最後の時間過ぎましたしょうね
どこに逃げ隠れようとも明日は来る立ち向かうのさ闇雲だとして
万歩計と共に一年 歩数より歩けることに今日も感謝で
店の棚所狭しと飾られる春を知らせる句の野菜等
かじかむ手息吹きかけて走る朝凍るニットに湯気立ち上る
微笑しつ黄泉より妹逢いに来し嬉しき夢覚め偲び止まざり
陥没の作業流るる映像に奇跡起これと男性の無事を
冷える夜は猫も炬燵がいらいしく吾の顔見てだんだん膝へ
永久に忘る事なし実兄の法要の日の春日優しき
惜しまれて今日又ひとり友の逝き寂しく偲ぶ懐かしき日々
震災最近いと言ふに三陸の山に猛る火鎮もらずある
「ほけますからよろしく」の映画に魅了さる人ごとならぬ心に染みる
落葉分け節分草と福寿草自然の庭の花暦かな
突然に道路穴開き落下するトラックニュース救助でこずる
八十六昭和百年記念旅釧路を拠点道内一周
咲き誇れ新たな道へ進む春ちゃんと咲くこと此処で咲くこと
無償ゆゑ私咲けど公の学びの庭に春や来るらむ

皆野高校 浅見 陸
皆野高校 作田 渚
皆野高校 片山 惣
皆野高校 飯田 雄貴
皆野高校 青野 未空
皆野 石原 達也
三沢 眞下 杏子
皆野 村田ハツ代
皆野 大澤 貴夫
下田野沢 浅見 豊子
国神 藤原マキ子
下田野 新井 節子
皆野 根岸 詩子
皆野 萩原 初恵
皆野 引間 万亀
三沢 新井 叶子
三沢 新井 民子
上田野沢 四方田利男
皆野 戸塚喜久雄
皆野 太幡琉美花
皆野 打木 昭廣

俳句 根岸茉莉 選 投稿数 25 句

御詠歌の抑揚復習ふ春の寺
(評)御詠歌のお稽古。日差しも明るく境内のつばきも春風に光っています。住職の後に続き唱える教典は抑揚が難しく、丁寧に練習を重ねる作者。上手にできて、極楽浄土にいるようなすがすがしい気分になったことでしょう。二句目、午後の縁側は作者の特等席。鳥の声を聞き山や雲を眺めたり、草花を愛しんだり、日が延びて至福の時間も増えました。三句目、大きな希望(のぞみ)とちよつとの不安を胸に詰めて、高校とも親しい友ともお別れです。大騒ぎも良い思い出になりますね。実りある人生を歩んでください。
縁側は午後の居場所よ日脚延ぶ
皆野 引間 千鶴
再会を誓って騒ぐ花の下
皆野高校 杉原 迅将
行幸の植樹祭待つ梅一輪
国神 鈴木 正文
冴返る青きシリウス天窓に
皆野 島 弘
体調を確かむ一歩春浅し
三沢 新井 叶子
皆野 村田ハツ代
持て成しの食事の膳に梅一輪
皆野 三沢 新井 叶子
皆野 村田ハツ代
三沢 新井 民子
満天の星の身ぶるい冴返る
三沢 眞下 杏子
卒業の涙を拭う風やさし
皆野高校 小林 尚人
草萌える季節はまだかと風の声
皆野 花垣好比古
障子開け早春の陽を誘ひ込む
下田野沢 浅見 豊子
薄氷の上の朝日の美しく
皆野 石原 達也
寒風に会話途切れる立ち話
下田野 新井 節子